

九条ブログはらまち

「はらまち九条の会」ニュース No. 39

2007(平成19)年10月8日(月)発行

このニュースは<http://sousou9.web.fc2.com> あるいは「相双地区九条の会フォーラム」

さらに「はらまち九条の会」で、1号から全号を見ることができます。

秋明菊

<1895(明治28)年10月8日は、日本軍が韓国王妃の閔妃(びんび・みんび)を惨殺した日>
日清戦争後、ロシアと結び日本排斥を企てた閔妃(李氏朝鮮26代国王の高宗の妃)を、日本公使三浦梧楼らの陰謀でこの日、日本守備隊と日本人壮士が惨殺する。翌年犯人は全員免訴となる。



発足から1年10か月、343名の会員となりました!

「はらまち九条の会」会員一覧 (敬称略・氏名公表同意者分)

2007年10月2日現在 会員343名(うち匿名希望者41名)

- あ** 青木謙二・青木容子・青木裕一・青田勝彦・青田恵子・青田利一・朝倉美智子・朝倉悠三・阿部和子・阿部しずえ・阿部俊二・阿部千代子・安部弘子・荒功雄・荒木貞夫・荒木千恵子・有間貢・石井隆一・石田賢二・石田ヨシ子・石塚京子・石塚雅三・石橋勝子・伊藤夏海・伊藤まり・伊藤孝子・伊藤廣行・井戸川恒雄・井戸川由香里・井上孝男・井上祐也・井上真貴・井上光正・井上由美・猪又義光・遠藤恵子・遠藤清一・遠藤たか子・大石光孝・大内一俊・大内眞子・大浦祥見・大河原組子・大河原鉄雄・大澤仁子・大須賀芳雄・太田喜久子・太田妙子・大谷安亀・太田久子・太田恵民・大槻千鶴子・大槻富美枝・大留隆雄・大貫昭子・大和田須美子・岡田克子・岡田博忠・岡田照夫・岡田規代・岡田光生・岡博子・岡本昇・小川尚一・奥平豊子・奥山孝・小畑瓊子・小元重語
- か** 角島孝子・角島利雄・勝冶美喜子・加藤功其・加藤百代・加藤憲男・金井武・金澤孝子・金子利夫・金子正子・鎌田昭子・鎌田利美・鴨志田喜代子・川口豊子・川口良市・神崎朱美・菅野幾代・菅野啓明・菅野和子・菅野清二・菅野レイ子・菅野正勝・菅野三男・菊池良子・木ノ下良美・木村キヌ子・草野宣子・國枝明芳・國枝ちえ子・国沢花子・熊田幹雄・栗原三和・小泉祐功・江美代司・桑折輝子・桑折光美・木幡愛子・木幡テイ・木幡トヨ子・小林恵美・小林トヨ子・駒場正雄・牛来正光・古和田美美子
- さ** 齋藤育雄・齋藤和子・齋藤久夫・齋藤清孝・齋藤幸子・齋藤文子・齋藤良一・齋藤幸博・酒井和広・坂下進一・坂平弘・相良利信・相良ミネ子・作山和子・酒井光孝・桜井勝延・佐々木昭夫・佐々木トモ子・佐々木孝・佐々木美子・佐々木鉄雄・佐藤邦雄・佐藤ヒロ子・佐藤貞子・佐藤節子・佐藤妙子・佐藤恒雄・佐藤照夫・佐藤文彦・佐藤昌家・佐藤みき・佐藤実・佐藤祐子・佐藤ゆみよ・佐藤雄大・佐藤玲子・椎根幸子・塩谷美津江・志賀クニ子・志賀成子・志賀隆・志賀忠重・志賀禎子・志賀達次・志賀律子・柴田次男・島國義・島田俊之・下条節子・下条真佐雄・新道譲二・新道良一・末永昇・鈴木丑太郎・鈴木啓子・鈴木顯三・鈴木陽子・鈴木トク子・鈴木千恵子・鈴木浪子・鈴木康晋・鈴木康孝・関琴枝・関場信子
- た** 平貞信・高江秀之・高倉ミチ・高野良雄・高橋彰・高橋功直・高橋晃一・高橋利子・高橋さき子・高橋新一・高橋秀子・高橋裕子・高橋美加子・高山文子・但野一博・但野博貞・只野テル子・只野邦彦・只野喜代美・只野豊彦・角田靖夫・寺田勝寛
- な** 中田正弘・永田恵子・永田隆義・永山洋子・新妻一信・二階堂憲宏・西浦能典・西山雄司・にほんまつ千比呂・根本定子
- は** 畑島幸子・馬場キヨ子・馬場丈夫・花井昭子・浜名建夫・浜名弘美・浜名絃隆・早坂節子・早坂吉彦・原美幸・原田利昭・番場敦子・番場翼・番場恵子・番場正宏・番場依子・東清和・引地俊夫・引地幹子・樋口利行・久田靖俊・日向敦子・日向博・平田慶肇・平田允子・平野敏彦・平野峯子・平間志津子・平間廣・深代ヨシ子・藤原一良・舟山ヒサ子・古内文吾・古山ヨシエ・星節子・星千枝・堀池玲子・堀内宣子
- ま** 増子吉次・松井照子・松井稔・松永邦彦・松永純子・松永正隆・松永章三・松永雄一・松永幸子・松本道子・松本恵久・松本寿行・松元ヒロ・水井清光・水口平八郎・水谷昌夫・三井健央・迎田健生・武藤弘子・茂木とみ子・桃沢輝記・諸井秀一・門馬利秀・門馬政彦
- や** 屋代常道・屋代つるよ・屋代万起子・山内茂樹・八牧将彦・八牧幸江・八牧美喜子・八牧通泰・山口幸子・山口末好・山崎健一・山崎洋子・山崎幸治・山崎孝雄・山崎秀夫・山田キヨ子・山田禎春・山本富士夫・弓田百合子・横井貞夫・横山雅子
- わ** 若松丈太郎・若松蓉子・渡部恵美子・渡部一夫・渡部恵一・渡部智子・亙理比呂志・亙理裕子・藁谷美津子(以上氏名公表会員302名)

○他に匿名希望会員41名

2005(平成17)年12月7日に発足した無党派の、ゆるやかな市民団体「はらまち九条の会」ですが、1年10か月でご覧のように343名の会員となりました。“憲法9条を護るため”、子ども達に平和な未来を残すため、他の「九条の会」と連携をとりながら、これからも頑張ります。

子ども達に再びこんな悲しい思いをさせてはいけません！

「九条プログはらまち」2号（8月6日発行）に、若松大太郎さんの詩「死んでしまったおれに」とジョー・オダネルの「写真・左中」を掲載しましたが、それと対照的な佐々木季さんの随筆「遺骨を抱く少女」と「写真・左上」を掲載してみます。他の有名な写真もコピーしましたが、子ども達にこんな悲しい思いをさせてはいけません。すべて、大人の責任です。（佐々木季さんは、十二月二日に予定の「学習会」のコメントーターです）

遺骨を抱く少女

六月十日

昼前に古本屋から届いた本を見つけた妻が、「先に見ていい？」と言って持っていた。しばらくしてなにやら息を呑む気配。何を見ているのだろう、と近づいてみると、片腕を白い三角巾で吊った少年の写真である。しかしまた何と瘦せていることか。スカート（？）の下から出た二本の足に肉はほとんど付いていない。

「こんなに瘦せてしまつて、よく帰ってきたわー。パパもこんなだったんでしょ」とつぶやく妻の声は涙声である。あわててキャプションを読んでみて、ようやく事情が飲み込めた。「遺骨を抱く少女」——二十一年七月、奉天（現瀋陽）の孤児収容所近くで出会った少女は断髪して男の子の姿、胸にしっかりと母の遺骨を抱き、北朝鮮・阿吾知から六百キロを歩いてきたと言った……」

このところ古本屋から満州関係の本を取り寄せることが続いた。先日は児島義の『満州帝国』（全三巻、文藝春秋社、一九七五年）、角田房子の『墓標なき八万の死者——満蒙開拓団の壊滅』（中公文庫、一九八二年）、そして今日発売新聞大阪社会部の角川文庫四冊（『中国孤児』、『中国慰霊』、『中国侵略』、『満蒙開拓団』、一九八五年）である。ところで先ほどの写真は、『中国孤児』の巻頭にあった

もの。そこにはさらに私自身がたどった道筋を記録した写真が数枚収録されていた。つまり口島の埠頭、上陸用舟艇、さらにその船倉で食事をする引揚者たちの姿である。不確かな記憶がこれらの写真でその輪郭をはっきりさせ、そして補強された。

思えば、今ごろになって満州時代のことを思い返し、その意味を考えようという気になったのは、二つの要素がうまい具合に重なったからである。決定的なのは、内モンゴル自治区からの留学生O・Gさんとの出会いであるが、そうした回帰への意志も、インターネットがなければ多分持続できなかったと思う。今はただ文献や書籍との出会いだけだが、根気よく探索していくならば、さらに多くの、しかも生の証言に出会えるのは確実である。

私自身のこれまでの無知と不明を補って言うのだが、日本人はこの満州体験を決して忘れるべきでないし、次代に語り継がなければならぬのだ。飽食と平和ボケの中でちよつとした不便や不如意にすぐ音を上げてしまうその贅肉をつけたおっさん（えつ、それって私のことか）、あの過酷な体験を経て今さら怖いものなど無いだろう。墓標も無しに死んでいったたくさんの人たちのためにもっと頑張れや！

富士貞房
（佐々木孝）著
『モノディア
ロゴス』p. 251
行路社発行より



■母の遺骨を胸に葫蘆島（遼東湾）にたどりついた。



ジョー・オダネル撮影
「死んだ弟を背負い
焼き場に立つ少年」
1945年8月 長崎



沖繩戦で捕虜となった日本人の少年と米兵



投降する少女 白旗を掲げてアメリカ軍に近づいてきた少女は、このときわずか7歳だった。 沖縄

この少女については映画化されています。



この子は壕の中でおびえているところを救出された。日系2世の海兵隊員が差し出した水筒に口を寄せて、ノドを潤らしながら飲んだという。



治療を待つ母子(1945年8月10日)(山端庸介撮影) 長崎

このお母さんは昨年亡くなりました。

▲上写真は、東京書籍『図説日本史』・第一学習社『最新日本史図表』・河出書房新社『図説太平洋戦争』よりコピー